

## 岬

その岬を取り巻く海は、空を映している  
模様でもなく、色彩でもない空を  
おお、互いの憧れをもって掌をつなぎ、  
抱き合い、溶け合う  
その拡がりへ吸い込まれてゆく

構造的なもの      奥行きと・・・  
本質以外のものをねじ伏せ、なぎ払う  
マッシュではない質量  
そのような、忘れられた角度を  
自負として、僕は提示するつもりです

形式を破壊することは許されている  
一方で「うた」を踏み外す危うさ  
その中で飛翔と集中を同時に実現する  
そのような、忘れられた伝統を  
啓示を      僕は解き放つつもりです

ああ、大気よ  
許しがたいのは、停止と忘却ではないか？  
おお、海よ  
許しがたいのは、不連続と虚無ではないのか？  
無意味な分断と破碎ではないのか？

この巖だらけの突堤に迫り来る世界の広さ  
まるで、この足下の一点が  
あらゆる空間を吸い込んでいるかのような  
ああ、この陶酔に満ちた存在感・・・  
それを投げ込んでみようではないか

(2004.9.23)